

エコネット応援団とエコネットカフェの取り組み

笠井良彦¹・川瀬芳浩²・佐々木貴教³

¹ 木曾川上流河川事務所 河川環境課 (〒500-8801 岐阜市忠節町5-1)

² 木曾川上流河川事務所 河川環境課 (〒500-8801 岐阜市忠節町5-1)

³ 木曾川上流河川事務所 河川環境課 (〒500-8801 岐阜市忠節町5-1)

木曾三川流域生態系ネットワーク事業の取り組みの一つとして、協働による推進手法検討会議の中で参加各種団体の協働を促す仕組み作りが必要とされ、「木曾三川流域エコネット応援団」の名称で参加団体を募り組織化を行っている。組織化の中で会員同士の交流が必要とされ顔の見える交流としての意見交換会(エコネットカフェ)を開催した。生態系ネットワークの推進についての取り組みを報告する。

キーワード：生態系ネットワーク、協働、地域連携

1. 河川を基軸とした生態系ネットワークの取り組み

(1) 全国における生態系ネットワーク推進の動き

河川および周辺環境の連環による生態系ネットワーク形成の推進は、「国土形成計画(H27.8 全国計画)」や「水循環基本計画(H27.7)」、「生物多様性国家戦略2012-2020(H24.9)」などにおいて環境政策のひとつとして位置付けられ、近畿地方(円山川・九頭竜川)をはじめ、関東地方(利根川・江戸川・荒川)、九州地方(遠賀川)など、全国各地で広域連携による事業促進が図られている。

(2) 木曾三川流域における取り組み背景

豊かな自然環境を有する木曾三川流域では、地域関係者による環境保全の取り組みも盛んである。流域の大部分を占める岐阜県では、「清流の国(商標登録)」を謳い、河川の持つ公益的機能をより高めるさまざまな取り組みを推進している。例えば、河川魚道の機能回復(フィッシュウェイサポーターとの協働による県内約670箇所)の魚道の点検等)、生きものにぎわう水田再生(水田魚道の設置促進や効果把握等)のほか、希少魚イタセンパラ(国天然記念物)の生息域外保全等が行われている。

平成22年(2010)の生物多様性条約締約国会議(COP10)が開催された愛知県では、その際に採択された中長期目標「愛知目標」の達成に向け、「あいち生物多様性戦略2020」を策定し、「人と自然が共生するあいち」の実現に向けた取り組みを推進している。そのなかでも、生態系ネットワークの形成の推進については、多様な活動主体が共通目標に向けて参加・協働

する場として、県内9地域で「生態系ネットワーク協議会」を設置している。

また、木曾三川沿川の各市町においても、大垣市では市の魚にハリヨを制定しており、一宮市ではイタセンパラシンポジウムを開催、羽島市ではイタセンパラサポーター制度を設立するなど、水辺環境の保全に向けたさまざまな取り組みが行われている。

2. 木曾三川流域における生態系ネットワークの推進

(1) 推進協議会の設立

このように、木曾三川流域においては、自然環境の保全・再生の取り組みが活発であるという地域特性を踏まえ、既存の取り組みを発展させることで流域生態系ネットワークの形成を推進し、魅力的な地域づくりに寄与しようと、平成26年(2014)に「木曾三川流域生態系ネットワーク推進協議会(以下、推進協議会)」を設立した(会長：武田穰 静岡大学 学長補佐室 特任教授・URA)。

推進協議会(および後述するその下部組織を含む)は、流域の自然環境や地域振興に詳しい学識経験者、市民団体・民間企業の代表と、13の自治体(愛知県、岐阜県、一宮市、岐阜市、大垣市、羽島市、瑞穂市、海津市、養老町、垂井町、神戸町、輪之内町、池田町)、環境省中部地方環境事務所、農林水産省東海農政局、および国土交通省(中部地方整備局河川環境課、木曾川上流河川事務所、木曾川下流河川事務所)を構成メンバーとしている。

(2) 全体構想

推進協議会では、市民団体、民間企業、研究者、行政機関等の地域関係者の協働による取り組みを円滑に推進するため、木曾三川流域生態系ネットワークの全体像を明確にし、目標像を共有するための「木曾三川流域生態系ネットワーク全体構想(H29.3)」を作成した。

ここでは、当面の検討対象を木曾川上流河川事務所が管理する河川区域と、それに隣接する市町と位置付け、それらを環境特性に応じて「氾濫原」、「湧水帯」、「本川・支川」、「扇状地」の4つのエリア図-1に分けた。この4つのエリアにおいて、それぞれの自然環境を代表する生物(希少種や地域で親しまれている種)を指標種に選び、具体的な取り組みを進めていくことを、基本方針としている。

(3) 各エリアにおける取り組み概要

具体的な取り組みは、この全体構想で示したエリア区分に基づくテーマごとに、推進協議会の下に「推進部会」を設置して検討している。

現在、氾濫原エリアの指標種をイタセンパラ写真-1、湧水帯エリアの指標種をハリヨ写真-2と設定し、平成28年(2016)に「イタセンパラ生態系ネットワーク推進部会」、「ハリヨ生態系ネットワーク推進部会」を設置、平成30年度(FY2018)には「氾濫原・湧水帯生態系ネットワーク推進部会」に統合して取り組みを進めている。

氾濫原生態系ネットワークの推進については、国の天然記念物であるイタセンパラを指標として、氾濫原環境(ワンド・たまり、水田や周辺水路等)の保全・再生を推進することを計画している。ここでは、主な対象フィールドを、木曾川、揖斐川、犀川遊水地、下池地域(水田地帯)とし、河川管理者による環境整備、地域関係者への河川・水田環境保全の働きかけ、またイタセンパラ保全に関する啓発や教育を対策メニューとして整理している。

湧水帯生態系ネットワークの推進については、美しい湧水環境のシンボルであるハリヨを指標として、湧水環境の保全・再生を推進することを計画している。ハリヨについては、すでに保護活動を行っている市民団体・学

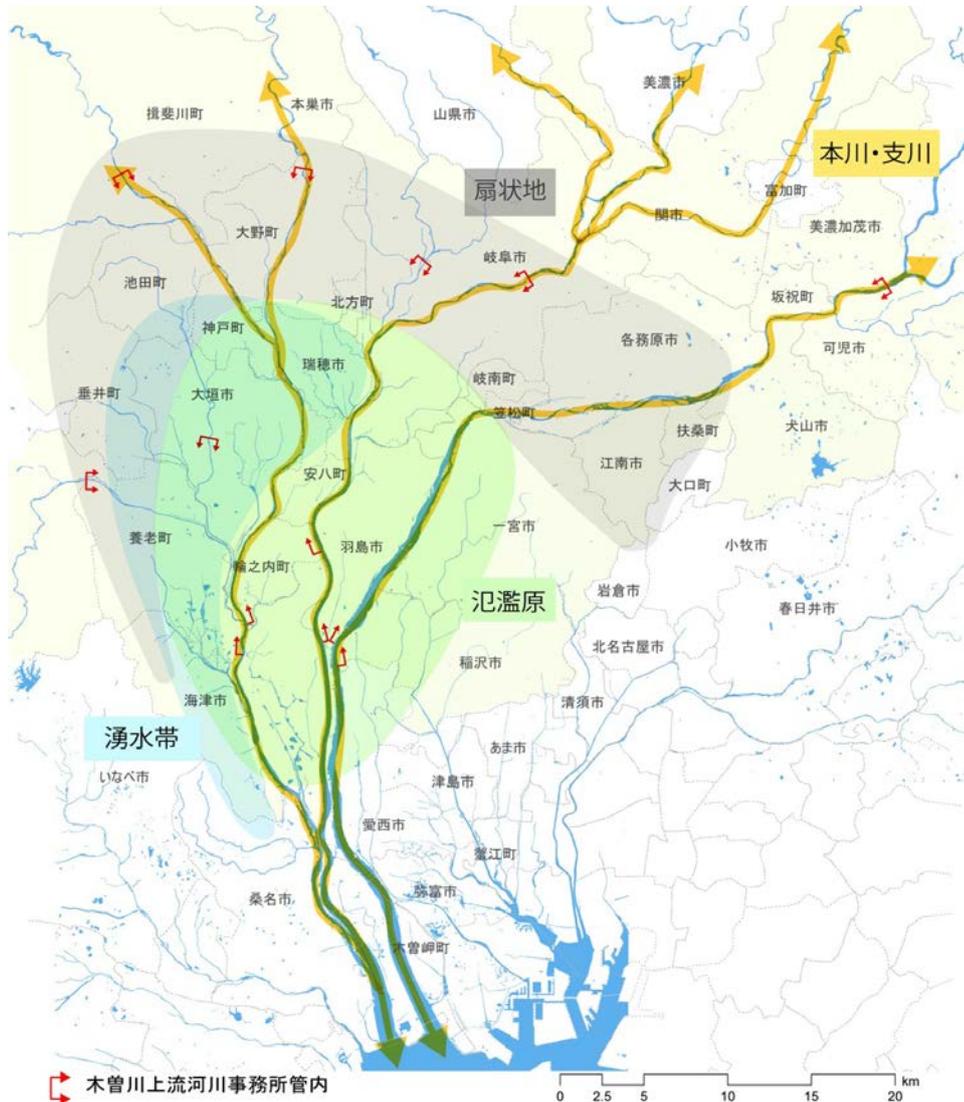


図-1 木曾三川流域生態系ネットワーク全体構想のエリア区分

校・研究者が多いことを踏まえ、活動への支援(情報の収集・整理やその提供等)、ハリヨ保全に関する啓発や教育、また湧水文化の振興等を対策メニューとして整理している。

また、平成 30 年度(FY2018)には、本川・支川の生態系ネットワークの推進のため、回遊魚ニホンウナギを指標種とした「ニホンウナギ生態系ネットワーク推進部会」が設立され(木曾川下流河川事務所が事務局)、現在、取り組み推進のための計画づくりが進められている。



写真-1 イタセンパラ: 二枚貝に産卵するタナゴ類の1種。国内 3 地域にのみ生息する希少種で、国指定の天然記念物(文化財保護法)であり、国内希少野生動物種(種の保存法)である



写真-2 ハリヨ: ひれの一部分がトゲ状になったトゲウオ類の1種。現在、国内の自然生息地は減少し、岐阜県南西部をはじめ 2 箇所限定される。世界各地に分布するトゲウオ類のなかで、本地域のハリヨ生息地は最南端に位置する。湧き水を水源に持つ池や細流に生息する

3. 広域連携による取り組みの促進

(1) エコネット応援団の設立

推進協議会下には 2 つの部会とは別途に、取り組みの推進に向けて、関係者の連携・協力を促進するための方策や仕組みを検討する「協働による推進手法検討会

議(以下、協働検討会議)」を設置している。

これまでに、協働検討会議における意見交換を踏まえ、主には取り組みの機運を高めるための広報・啓発(PR 用資料の配布・掲示、専用ホームページ図-2 の開設等)、連携を促進するための仕組みづくりを進めてきた。

この仕組みづくりとして、流域にはすでに多種多様な環境保全活動を行っている市民団体・学校・民間企業等があるという現状を踏まえ、それらの人・地域をつなぐものとして、平成 28 年(2016)に「木曾三川流域エコネット応援団(以下、エコネット応援団)」を発足した。

現在、エコネット応援団には、生物保護に取り組む市民団体、水源林管理・ビオトープ整備・市民活動等への支援を行う民間企業、木曾三川の自然環境に関する学習・調査・研究・啓発等に取り組む学校施設や自治体等の行政機関等、計 71 団体(R2.7.31 時点)が参加している。

(2) エコネット応援団の活動

エコネット応援団は、多種多様な地域活動を行う団体等の集まりであり、事務局を務める木曾川上流河川事務所では、これらが相互に連携・協力し、影響を及ぼし合っており、さらに大きな成果が生み出されるよう、情報共有ツールの整備や交流機会の創出を図っている。

具体的な活動としては、例えば、エコネット応援団同士の連携意識向上を目的とした、ロゴマークの作成を行った。このマークは各種関係資料や事務局から各団体へ届くお知らせに添付しているほか、参加団体であれば、各々の活動に活用できることとしている。また、エコネット応援団同士の情報共有のため、関係者イベント開催のお知らせメールの配信や、各団体活動の告知や結果広報を行うニュースレター「ECONET NEWS」を年 4 回程度発行している。



図-2 専用ホームページと Facebook ページ

(3) 交流会「エコネットカフェ」の開催

こうした団体同士の連携・協力が、より効率よく、末永く継続されるよう、事務局を介さない自立可能な仕組みとして、平成30年(2018)9月開設したのがエコネット応援団 Facebook ページである。現在、ページ管理(イベント情報の投稿等)は事務局が行っているが、将来的には地域関係者各々が情報の交換・共有、意見交換や交流を活発に行う場となることを願うものである。

また、エコネット応援団の連携促進のため、参加団体が集う交流会「愛称:エコネットカフェ」を企画・開催している。第2回目となる「エコネットカフェ2019」は令和元年(2019)11月9日(長良川国際会議場)に開催写真-3し、エコネット応援団参加団体に所属するさまざまな地域関係者約50名に参加いただいた。



写真-3 交流会「エコネットカフェ2019」のようす

当日は、木曾三川を代表する伝承文化「長良川の鵜飼い」について、「長良川うかいミュージアム」を訪れ、ボランティアガイドより講習を受けた。

その後、交流会場へ移動し、イタセンパラ、ハリヨ、アユなど、木曾三川流域の希少生物の研究・保護・啓発を行う高校生らから、日頃の活動の内容や成果等について発表いただいた。この日は、応援団メンバーでもある世界淡水魚園水族館 アクアト・ぎふ館長も登壇いただき、水族館のなりたちや河川現場での保護活動等についてもご紹介いただいた。

発表会の後は、グループディスカッションを行った。ディスカッションは笑い声があちこちから上がる和やかな雰囲気、地元高校生・市民団体・研究者・行政機関・民間企業等のさまざまな年齢・職業・役職や専門分野の参加者が、気軽に日頃の悩みを共有したり、アドバイスしあったりする場となった。

計2回の交流会の参加者からは「おもしろい・新鮮」、「こんなに自由な雰囲気、なんでも開けて・話せる会をはじめ」、「質問だけでなく、専門家の人などからさまざまアドバイスをいただけてよかった」、「自分たちとまったく関わりがないということがひとつもなく、自分たちの活動を改めてよく見つめ直すことができた」、「もう少し長いほ

うがよかった・時間を増やして」などなど、いずれも前向きな感想・意見が得られた。

武田協議会長からは、「人と人のネットワークを広げていくことが重要。その成果として地域経済が活性化する成果が得られたならば、それをもとに、地域の取り組みをさらに発展させるという仕組みにつながるとよい」といった総評をいただいている。

(4) 流域間交流の展開

木曾三川流域エコネット応援団の取り組みは、流域を超えた連携にも発展している。エコネットカフェで研究発表された高校を対象に、愛知県の取り組み「西三河生態系ネットワーク協議会」よりオファーを受け、「西三河生態系ネットワーク形成フォーラム(令和元年(2019)10月20日/刈谷市産業振興センター)」へ参加し、事例発表を行った。参加したのは、岐阜高校自然科学部生物班、大垣東高校理数科ハリヨ班、木曾川高校総合実務部の皆さんと、応援団事務局(木曾川上流河川事務所)で、当日は西三河地域で活動する団体・学校等との意見交換の機会にもなった。

国連生物多様性の10年の最終年(COP10から10年)に当たる2020年を機に開催された「あいち・なごや生物多様性 EXPO(令和2年(2020)1月11~12日/名古屋国際会議場)においては、エコネット応援団としてブース出展写真-4を行った。

ブースでは、エコネット応援団関係者より提供を受け、各団体の活動内容を紹介するパネル資料、指標種(イタセンパラ、ハリヨ)の繁殖行動やハリヨを題材にしたミュージカル作品の動画、体験しながら自然を学べる作品(クラフト釣り体験、生きものハンコ、魚類アクリル標本等)の展示・配布等を行った。ブースにはたいへん多くの来訪者があり、木曾三川流域の自然や取り組みについてPRできた。



写真-4 エコネット応援団ブース展示のようす(あいち・なごや生物多様性 EXPO)

4. おわりに

全国にみられる河川を基軸とした生態系ネットワークの取り組みでは、コウノトリ、トキ等の大型鳥類を指標とし、生息場保全と観光振興の相互推進を図っている例が多い。

そのなかで、木曾三川流域生態系ネットワークは、魚類を主なシンボルとしている。また、交流会を開催するなどし、学校・研究機関・行政等の技術交流を図り、地域の学術振興を推進している点も特徴である。このように、水と人との関わりを深めていくことで、生態系ネットワーク形成による地域振興に貢献していきたいと考えている。

さらなる木曾三川流域における生態系ネットワーク形成の推進には、より多くの地域関係者の連携・協力を促進するなど、まだ必要なことは多いと思われるが、この取

り組みを通じて、少しずつでも人と人とのつながりが再生され、「生きものと暮らす豊かな地域」が現実のものとなっていきよう、今後の事務局運営を務めていきたい。

参考文献

- 1) 岐阜県ホームページ「清流の国ぎふ森林・環境税について」<https://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/shinrin/shinrin-kankyo/megumi/index_28339.html> (参照 2020.7.17)
- 2) 愛知県ホームページ「生態系ネットワークの形成にむけて～あいち方式～」<<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shizen/aichihousiki.html>> (参照 2020.7.17)